

花海棠

池松 孝子

海棠には、花を楽しむ花海棠と実のなる実海棠がある。中国原産で中国名の海棠をそのまま音読みにしたものである。俳句で詠まれるのも花海棠のことだ。バラ科のリンゴ属で、花海棠もリンゴに似た小さな実をつけることもあるそうだ。

よく観察していると海棠の花の色は微妙に変化していく。蕾の時は紅色で、開花するとピンクに、そして次第にその色は薄く白っぽい色に変わっていく。桜に似た花で、桜よりも花の時期が長いことから人気がある。中国でも牡丹と並んで最も美しい花とされる。

先日、平たく言えばゴミ焼却場であるが、プール、スポーツジムなど余熱による健康施設のある広い公園を散策した。風の強い花散らしの日で、桜はひらひらと舞っていた。海棠は桜のように枝を広げないので庭木や生垣にも重宝される。そのとおり、垣根の中に高さ3メートルもあるうか、優しい花をたっぷりつけた花海棠が立っていた。

花海棠はうつむき加減に花をつけ、それも垂れ下がるようにたくさんの花をつけるので垂糸海棠の別名があるほど。その姿は妖艶な美しい女性に例えられる。

唐の玄宗皇帝は、酒に酔って眠る楊貴妃を「海棠の眠りいまだ足りず」と詠んだと
の故事があるという。そのことから「眠れる花」との別名もある。雨に濡れた海棠をとらえて、打ちひしがれた美女に例えたものもある。その風情は容易に思い浮かぶだろう。

漢字辞典によると、海棠の「棠」の漢字の訓読みはこれ一字で「やまなし」と読む。そのやまなしは、バラ科梨属で花海棠と同じような花をつける。やはり桜の散ったころに咲く白い花だ。私の散策した公園ではピンクの花をつけた花海棠と白い花をつけたやまなしを見ることができた。やまなしは秋には小さな実をつけるという。

このやまなしは今、私たちが食べる梨の原種で、その栽培種が「長十郎」だということから興味深い。秋には甘くておいしい小さな実をつけると聞いた。